

パークゴルフ発祥30周年 記念式典・祝賀会



①式典であいさつする浦田実行委員長
②パークゴルフ30年の歴史を振り返る写真展と用具展③功労者や来賓など123人が出席しました



④交流のある高知県中土佐町長（右から2人目）や神奈川県開成町長（最右）も出席しました⑤古川町議会議長の乾杯で祝賀会がスタートしました

幕別町で産声を上げたコミュニティスポーツ「パークゴルフ」の発祥30周年を祝う式典・祝賀会が十勝幕別温泉グランヴィリオホテルで開催され、功労者や来賓、管内PG協会会員など123人が出席し、盛大に節目を祝いました。

パークゴルフは昭和58年、当時、教育委員会教育部長だった前原^{あつし}さんが考案され、今では愛好者120万人を超えるコミュニティスポーツとして普及しています。

式典で浦田実行委員長は「三世代交流のスポーツを原点到、今後とも愛好者のすそ野を広げ、皆さんに親しまれるスポーツとなることを願う」とあいさつ。岡田町長は「パークゴルフが、今後50年100年と多くの方に愛されるよう、楽しさを伝えていきたい」と話しました。

PG考案の 前原さん 記念講演！

オール幕別で育てたPGの歴史

日本のみならず、アメリカやカナダなど世界10カ国以上で親しまれるコミュニティスポーツに発展したパークゴルフの考案者、前原さんが「パークゴルフと地域社会」をテーマに記念講演しました。

講演の中で前原さんは「私の考えに賛同する職員と地域の住民、幕別町の協力などにより、パークゴルフが多くの人たちの世代に親しまれ発展してきた。パークゴルフ30年の歴史は、オール幕別で刻んできた歴史だと感じている」と語りました。

この他、リウマチに悩む人がパークゴルフを通じて体が動かせるといった事例や国際パークゴルフ大会開催の経緯などを紹介しました。

その中で前原さんは、パークゴルフが持つ3つの効果（①まちの人のふれあい、②健康の維持・増進、③経済効果）を上げ、地域にもたらす多面的な効果から、単にスポーツという概念では収まりきらない」とし、「パークゴルフ発祥の町として、先進的な取り組みをしていきたい」と述べました。

「世界遺産となった富士山のようにすそ野を広げ、さらに多くの愛好者が生まれるスポーツとなることを願っている」と話し、パークゴルフ30年の歴史の一端を語りました。

文部科学大臣表彰を受賞



平成25年生涯スポーツ功労者の表彰式が10月11日に東京で行われ、パークゴルフによる地域振興などが評価され、前原さんが文部科学大臣表彰を受賞しました。

花を添える パークゴルフ音頭

祝賀会では、北海道民謡連盟最高師範の九本栄一さんが作詞・編曲を担当したパークゴルフ音頭が、男性・女性・子ども3バージョンで披露され、節目の祝いに花が添えられました。

男性バージョンは九本栄一さん、女性バージョンは中川信子さん、子どもバージョンは市内の小学校に通う遠藤彩寧さん・山下暖さん・池浦綾乃さんの3人が歌い上げ、会場から大きな拍手が送られました。

パークゴルフ音頭が収録されたCDは、記念品として出席者に贈呈されました。



▲パークゴルフ音頭で会場を盛り上げる九本栄一さん